

社会福祉法人 木の芽福祉会

令和6年度 各事業総括

御影倶楽部 多機能型	就労継続支援事業B型 御影倶楽部
	自立訓練事業 リチエルカ
	就労定着支援事業 エム・ライズ

咲くら工房 一体型	就労継続支援事業B型 咲くら工房
	就労継続支援事業B型 ひらめの家

多機能型 御影倶楽部	一体型 咲くら工房
------------	-----------

地域活動 支援センター	わかば：東灘区
	あんず：灘区

指定特定 相談支援事業	いろは
----------------	-----

就労継続支援事業 B 型 「御影倶楽部」

I. はじめに

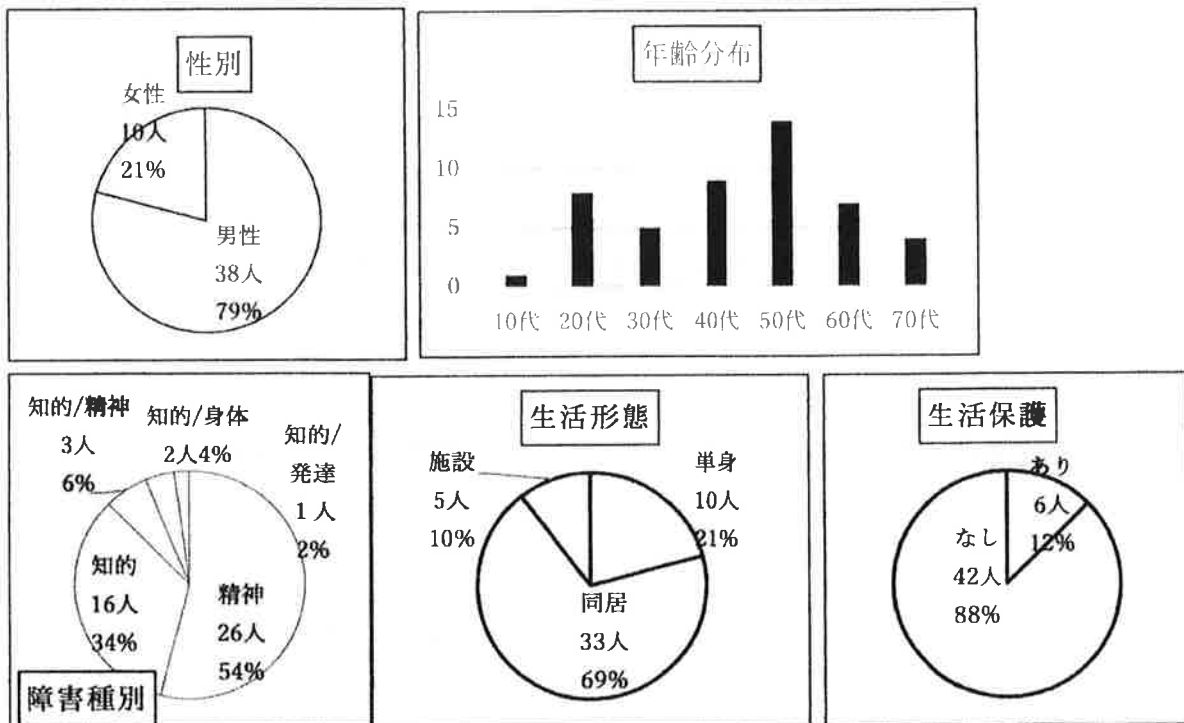
作業やコミュニケーションを通じて利用者同士や利用者と職員間で和気藹々とした活気のある雰囲気を作ることができた。

障害特性にあわせた作業の個別化を進め、一人ひとりの得意ややりがいに合った作業を作った。自主製品は積極的に外部とつながる取り組みをして工賃アップに貢献し、平均工賃は 1 万円を超えた。企業との協働が神戸市から表彰もされた(神戸 SDGs 表彰)。

室内や外出レクの機会を増やし、仕事以外の楽しみや他事業所を含めた利用者同士の交流の機会を増やした。メンバーミーティングを活性化させ、利用者の自主性や意見の表明を大切にし、様々な特性のある利用者がお互いを理解・尊重しあう雰囲気を作った。

II. 利用者状況 (2025 年 3 月時点)

1. 登録者数 48 名 (定員 24 名)



利用者の特徴

- (1)男女比：男性の比率が高い上、利用率の高い男性知的障害の利用者が多いため実際に通所している利用者の男女比では、より男性の利用者率が高い。女性利用者がゼロの日もある。
- (2)年齢：支援学校卒業生の 10 代から後期高齢者世代の利用者まで年齢層は幅広い。前年度より 50～60 代の層が増えた。
- (3)障害種別：精神障害が多いが知的障害の利用者も年々増えている。
- (4)生活形態：家族との同居が多いが同居家族も高齢化しつつあり、計画相談が入り一人暮らしやグループホーム入居に向けて動き出した利用者も複数いる。
- (5)経済状況：独居の利用者を中心に生活保護の方がおられる。東灘区の地域の特徴で持ち家の利用者も少なくない。

2. 新規利用者 6名(紹介元：支援学校卒業生、リチエルカ卒業生、わかば、計画相談、区役所生活支援課、東灘事業所紹介フェア)

※リチエルカから最初の卒業生が御影倶楽部につながったほか、他事業所を退所したわかば利用者の利用開始もあった。

3. 退所者 4名

退所理由：長期利用なし1名(依存症治療のため他県の施設に長期入所)、他事業所への転出2名、高齢者施設への入居1名

※毎日通所していたが、異性利用者との人間関係の破綻で突然引越して退所した利用者がいた。また同居家族からの虐待と思われる事例が区役所に通報されたあと、病気発症により緊急入院しその後高齢者施設に移ったため退所した利用者もいた。

4. 利用者数

月平均利用者数：目標 435名、実績 **476.8名**

1日平均利用者数(土日祝含む)：**20.3名**

※参考/2023年度：月平均利用者数：目標 425名、実績 **421名**

1日平均利用者数(土日祝含む)：**18.7名**

年間を通して2月以外は前年度実績および予算を上回った。

Ⅲ. 活動内容

1. 作業、工賃

- (1) 作業内容
- ・下請け作業(釣り針の袋入れ、ビスの袋入れ等)
 - ・自主製品製作販売(紙漉き、ドリップコーヒー製品、編み物)
 - ・屋外作業(レオパレス共有部分清掃)

(2) 工賃(一人当たり)

最高月額工賃：**21,600円**

平均工賃額：時給 **164円**、月平均額 **11,803円**(新報酬算定式)

※参考/2023年度：年間最高月額工賃：**20,288円**

平均工賃額：時給 **160円**、月平均額 **5,226円**(新報酬算定式では **10,097円**)

下請けは年度後半では作業量の減少が見られたが、自主製品は紙漉きやコーヒー、編み物など商品の幅を広げて売上が上がった。

2. 余暇活動

屋内でのカラオケや屋外への外出レクの機会を増やし、仕事以外の楽しみや利用者同士の交流を図った。レクがあることで休みがちな利用者の来所のきっかけにもなった。

Ⅳ. 個別支援状況

1. 就労支援

前年度に引き続き、下請けはほぼ2種類の作業に絞ったうえで作業の細分化や見える化の工夫をして、一人ひとりに合った作業を提供した。下請け作業よりも文字書きやイラスト描き・色塗り・編み物などに強みや特性がある利用者には、一人ひとりにあった作業を作り出すことで仕事へのやりがいや喜び、来所日数の増加につながった。地域のイベントにも積極的に参加し、他機

関や地域の市民との交流を図るとともに売上アップにつなげることができた。

2.生活支援

触法の利用者について定期的にカンファレンスを開催していたが、施設外で再犯をしてしまった。引き続き相談支援事業所を中心に医療や訪看、弁護士と連携しながら、就Bとして日中は仕事をしてやりがいを感じてもらいながら他の利用者と関係を築くことで生活リズムを安定させる支援を継続している。

同居家族の高齢化に伴い、計画相談を入れて一人暮らしやグループホームへと動きだした利用者も複数いた。相談支援事業所等と連携しながら、生活を安定させることで来所日数が増えるような支援を続けていく。

V. 地域交流、他機関との連携等

東灘区自立支援協議会しごと部会を通じて他事業所と情報共有を図り販売イベントの機会を作った。協議会主催の事業所紹介フェアに参加したことで、新しい利用者契約につながった。また紙漉きイベントやワークショップを開催し、地域の方や学校関係者に御影倶楽部の活動を知ってもらう事が出来たほか、障害福祉にとどまらず幅広い分野の様々な関係機関と連携した。

VI. 経営状況

2月を除いて年間を通じて、利用実績は前年度実績および予算を上回ることができた。年齢も障害特性も多種多様な利用者があるが、大きな衝突もなく楽しく活気ある事業所の雰囲気を作り出せている。新規利用者は全員が順調に通所でき(1名は令和7年度よりリチュエルカに移籍)、退所者は去年よりも少なかった。ただ、これまでほぼ毎日通所していた高齢の利用者が持病等で来所が困難になったケースもあり、今後も高齢化に伴い来所日数が減る見込みの利用者も少なくない。

VII. おわりに

昨年度後半から続いている、利用者増加と工賃アップの高サイクルが継続した1年だった。一方で利用者が多い分、利用者間のぶつかり合いや女性実習生や地活利用者と「バウンダリー(境界線)」を超えてしまうような不適切なコミュニケーション、触法利用者の受止めなど数々の課題はあった。その度に、事業所内外の職員と議論や情報共有を重ね、利用者同士でお互いを認め合う関係づくりができる働きかけをしてきた。

ジョブラボ(就職支援法人事業)が本格的に始まったので就職を目指す利用者には個別に就労に向けた支援の開始、ライズ兼務となった主任の外出頻度の増加も見込まれるなかで、職員間で負担を分かち合いながらチームとして利用者支援にあたっていきたい。

以上

自立訓練(生活訓練)事業 「リチェルカ」

I. はじめに

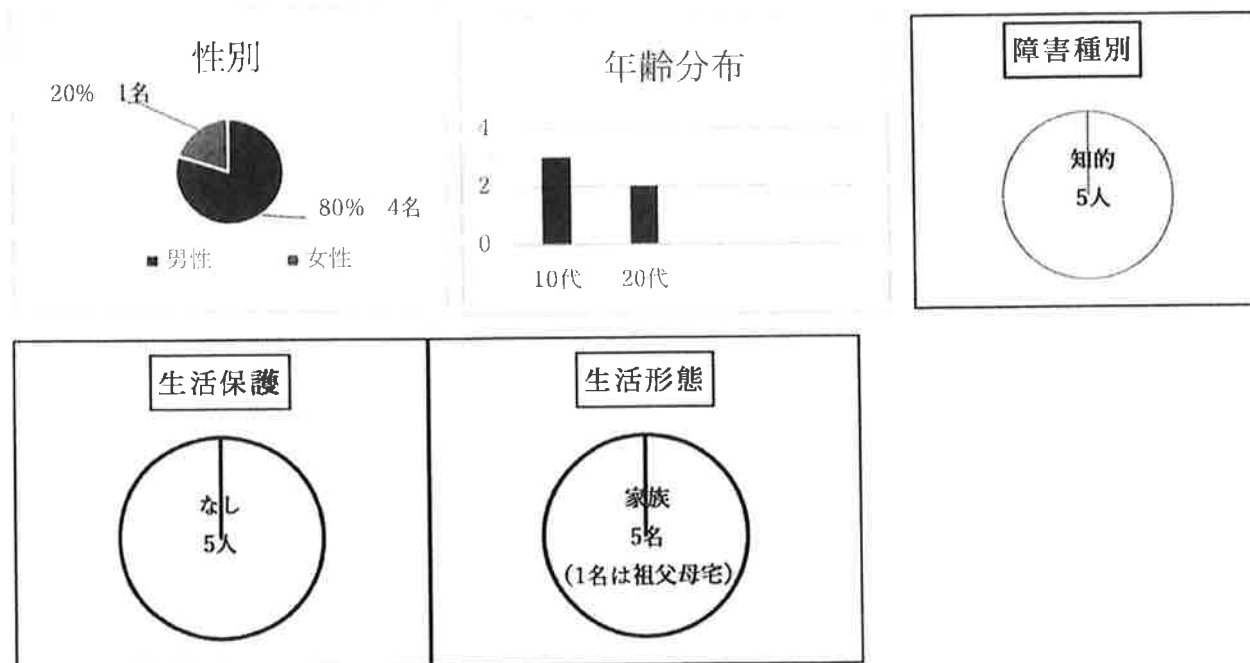
2024年度は青陽灘、芦屋特別、神大付属からそれぞれ男性1名が加わったことで合計5名となった。今年度は前年度に比べて控えめな集団の雰囲気であったが、日を重ねるごとにお互いの関係が深まっていき、1年が経つ頃には関わりが増え、個別の関係も出来上がっていた。

特別支援学校からの実習受け入れ、夏の体験実習を行い、卒業後の進路として参考にしてもらうための機会を作った。また、大学、専門学校からの実習生も受け入れ、リチェルカとしては普段と違った人との関わりになり、実習生側からはこれまでにない実習機会になったなどの感想があった。また、神戸西高等支援学校や阪神昆陽など新たな学校への営業や、これまでも関わりを多く持っている支援学校との連携も継続することができた。

2025年3月末で2期生2名の利用が終了した。進路に関しては2年間でそれぞれ実習を重ね、2名とも就労B型を利用することとなった。

II. 利用者状況 (2025年3月31日時点)

1. 登録者数 5名 (定員10名)



利用者の特徴

- (1)男女比：男性4名、女性1名。
 - (2)年齢：18～20歳、支援学校卒業後から利用している。
 - (3)障害種別(手帳の種別)：精神0名、知的5名、身体0名。
 - (4)生活形態：全員が家族と同居状態で始まったが、1名が年度途中から家庭状況の変化(引越し)により現在一時的に祖父母宅で暮らしている。
 - (5)経済状況：どの家庭も困窮している様子はない。
2. 新規利用者 2024年4月から3期生として男性3名が利用開始。

3. 退所者 2025年3月末で2期生の2名が利用満了。

4. 利用者数

月平均利用者数：目標 99名、実績 99名

1日平均利用者数(土日祝含む)：5名

Ⅲ. 活動内容

実際の体験や経験を通して積み重ねていくことに重点を置いた活動をしてきた。ただ楽しかっただけにならないよう事前の準備・計画を立てる練習と振り返りを行うことで、困ったことや改善が必要な部分を自分事として受け止められるようにした。その積み重ねで出来るようになったことを自信に繋げられるようにした。知識としての学びから入るよりも、実体験から学ぶ方が身につきやすいという部分は今年度も同じだった。

活動中での細かな成功や失敗、他者とのコミュニケーションや社会でのマナー等、その瞬間に起こる事をタイムリーに経験し、気づきを促すようにする支援を意識した。

SNS(インスタグラム、フェイスブック)でプログラムや日々の様子を伝えてきた。

Ⅳ. 個別支援状況

1. 就労支援

進路決定のため3か月に1回程度法人内外へ実習に行った。本人の希望、得意なこと、地域、活動内容、雰囲気など個別に一緒に考えて実習先を調整した。リチエルカ卒業後は俳優になりたい・警察官になりたいと希望していた利用者がいたが、警察署の見学や同職業の方から話を聞くことで自身の現状を知り、近い将来の夢ではなく先の将来の夢として考えられるようになった。また、家族が経営している事業での就職をイメージしていた家族がおり本人は家族の方針であればという姿勢だったが、本人の経験と伸び代等を考え、本人・家族と話を重ね、まだまだ社会経験を積む必要があることで方向を決め、他法人の就労B型へ繋ぐことができた。

2. 生活支援

引越しをすることになった利用者(家族)がおり、引越しまでのことや引越し後のことなど現在も家族と都度連絡を取っている。それまでは一人暮らしを目指してショートステイで練習をするために事業所を探し実際に利用まで進んだが一旦中止となった。家族は市外へ引越したがリチエルカ利用継続の希望があり一時的に祖父母宅で過ごしながら通っている状態。7月に祖父母も市外へ引越すと話があったが、まだその後の具体的な話は出ていない。タイミングはどうかあれ利用終了後は市外在住になるので、自宅周辺や近隣市などでの事業所探しを進めている。リチエルカとしては最後まで利用してもらいたいのが家庭のことでもあるので今後も連絡をとりながら進めていく。

Ⅴ. 地域交流、他機関との連携等

東灘区自立支援協議会子ども部会で、放課後等デイサービスや支援学校との情報共有や地域との繋がり方などについての議論をしている。

ボランティアによる工作や外部講師(書道・ヨガ・音楽・臨床美術)による活動を行った。また、地域清掃、体育館やジムの利用、園芸療法、再度山での「こうべ森の学校」の木の伐採ボラン

ティア、「あすパーク」でのごはん作りプログラム、近隣のお寺(西方寺)からの依頼で落ち葉掃除など地域に出た活動を行った。

VI. 経営状況

前年度より1名少ない5名になったので、実績が1名分下がった。年度途中からの利用も可能だが途中からの利用者はいなかった。実績はほぼ安定しているが年度途中で大きく増えることは基本的にない。年齢や家庭状況(学生の兄弟が多い等)的に、夏休み期間などの長期休暇は帰省や旅行に出かけることが多い傾向にあるので、そういった期間に休日開所をしても利用者が少ないため開所はほぼしなかった。プリマ(入学式)や修了式、説明会、HUG+展などのイベントで休日開所をして、休日の過ごし方として不定期で休日開所を実施した。

VII. おわりに

3年目を終え、支援学校や放課後等デイサービスなどとの関わりを通してリチェルカの名前が広まってきていることを実感できる場面が増えてきつつある。高校1年生、またはそれ以前から自立訓練に興味を持っている人も増えているようにも感じる。その分、様々な障害や特性を持った人や様々な家庭環境の人から希望があるかもしれない。たくさんの人に必要な場所であることを大事にする一方で、「木の芽福祉会としての、リチェルカとしての生活訓練」がどういったものなのかよく理解してもらおう活動も続けていく必要がある。また、利用者が毎年入れ替わっていく事業なので、柔軟な支援、活動も続けていきたい。

以上

就労定着支援事業 「エム・ライズ」

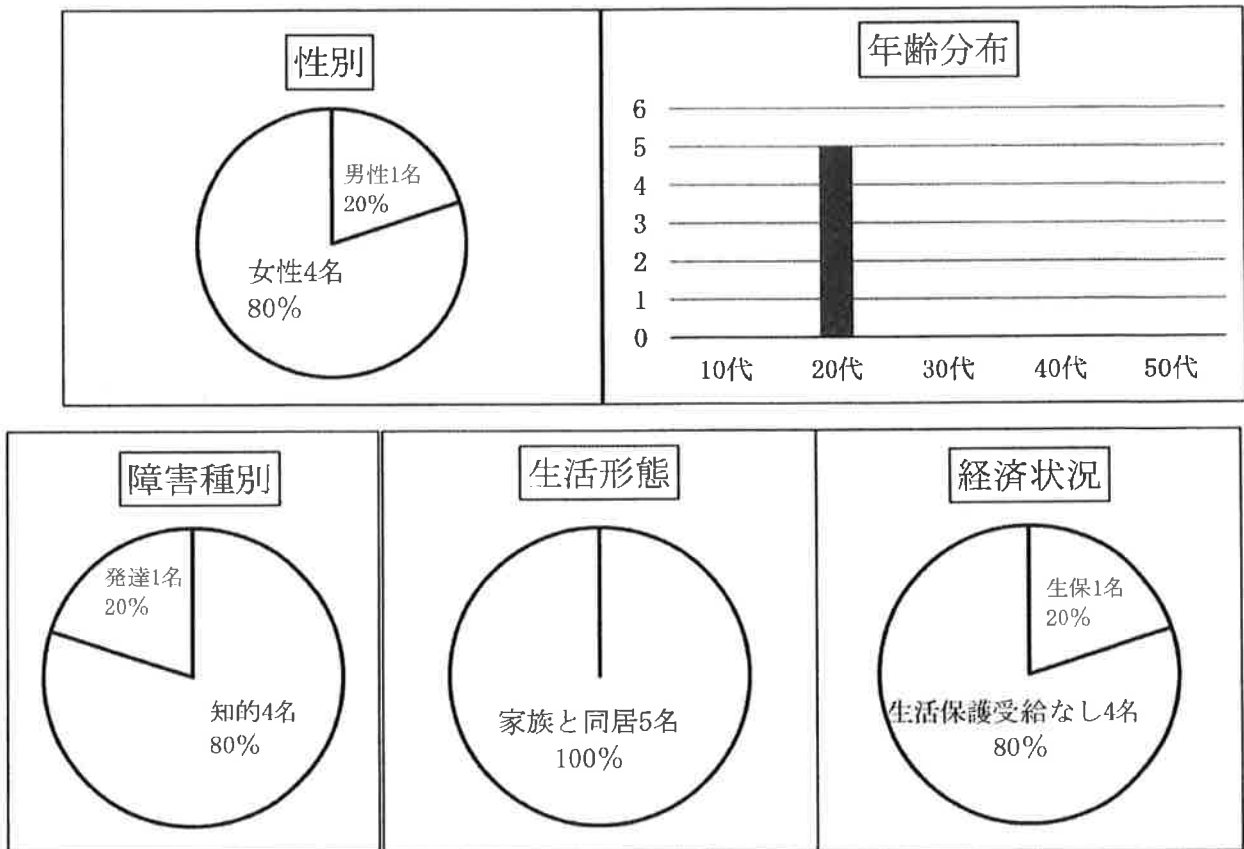
I. はじめに

登録者との面談は毎月 100%実施できた。来年度から支援者が変更となるため、登録者や企業関係者、支援機関との関係構築が急がれる。

毎月の支援内容については引き続き企業担当者への報告書送付、および電話等にて情報共有をして連携している。

II. 利用者状況 (2025年3月時点)

1. 登録者数 5名(定員なし)



利用者の特徴

- (1)男女比：男性 1名、女性 4名。
- (2)年齢：20代 5名
- (3)障害種別：知的障害 4名、発達障害 1名
- (4)生活形態：家族と同居 5名
- (5)経済状況：生活保護受給者 1名。

2. 新規利用者 2名

3. 退所者 2名(支援期間満了 2名)。

4.利用者数

- ・月平均利用者数：実績 5 名 月 1 回以上の支援
- ・就労職種：食品製造業 1 名 清掃業 2 名 接客業 1 名、学校事務業 1 名

Ⅲ. 個別支援状況

1.就労支援

基本的に利用者の休みの日に合わせて支援に入る事が多い。現状、安定して仕事をされている方が多い。本人支援の他、支援報告書を企業の担当者へ送付するなど企業側との連携も取れている。

2.生活支援

ストレスの発散の仕方など、プライベート面での精神的な安定の図り方を提案している。

Ⅳ. 地域交流、他機関との連携等

- ・必要に応じて会社の担当者とも連携して情報共有を行っている。
- ・支援期間が満了した方については外部の支援機関(神戸障害者就業・生活支援センター)と連携して情報共有を行っている。

Ⅴ. 経営状況

来年度中の利用者の動きは以下の通り(25年3月時点)。

- 利用開始予定→6月(1名) 計1名。
- 支援終了→9月(1名) 10月(1名) 計2名

※3年間の利用期間満了により支援満了

Ⅵ. おわりに

担当職員が御影倶楽部と兼務の1名のみの体制である。平日の日中に支援に出向く事が多くなるため、職員同士の緊密な連携が引き続き必要となる。またジョブラボと連携し、就職が決まる前から支援することで就職後の定着支援にスムーズにつながられるようにする。

定着支援期間満了を迎える方に対しては、支援期間満了後に外部の支援機関へ繋げるようにして支援の糸が切れないようにしていかなければならない。

以上

就労継続支援事業B型 「咲くら工房」

I. はじめに

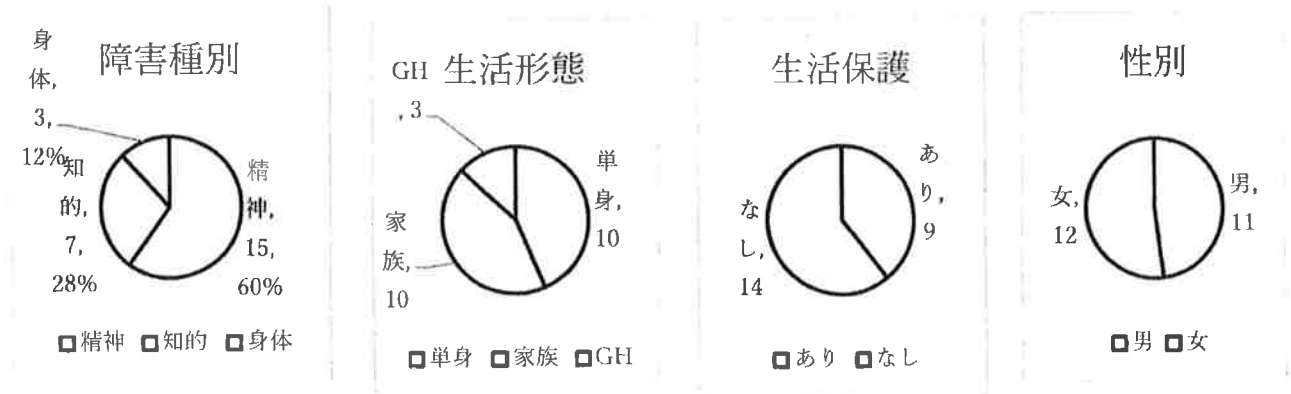
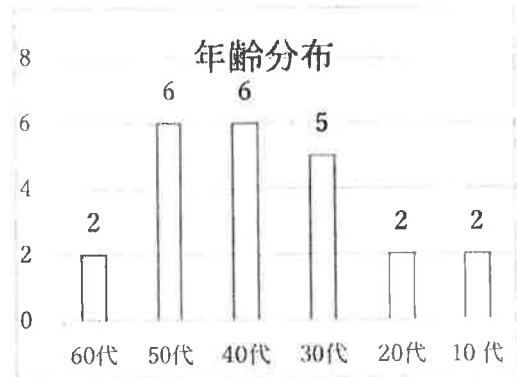
2024年度は特別支援学校から2名の新卒利用者の登録希望があり、一日の平均利用者数の増加が見込まれていたため職員も常勤を1名増やし、1階の風呂場を面談室に、2階の納戸を作業室と繋げて拡張するなどハード面も環境を整えた。一日利用者数平均は、2023年度14名から、2024年度は16人へと増加させることができた。エム・ワークス終了に伴い非常勤1名も咲くら工房へ異動となり、弁当作業と併せて様々な軽作業を曜日や時間帯、職員体制などを工夫して常時稼働させ活気ある雰囲気運営することができた。

II. 利用者状況(2025年3月時点)

1. 登録者数 23名(定員20名)

利用者の特徴

- (1) 男女比：男11名・女12名
- (2) 年齢：60代2名・50代6名・40代6名・30代5名・20代2名・10代2名
- (3) 障害種別：障害種別：精神15名・療育7名・身体3名（うち知的・身体重複2名）
精神が60%となり、近年毎年の傾向で、療育の割合が今年も微増。精神、療育、身体それぞれの特性に合わせてさらに個別配慮を必要とする方が多い。
- (4) 生活形態：単身10名・家族10名・GH3名
- (5) 経済状況：生活保護9名・保護なし14名



2. 新規利用者 5名

特別支援学校から2名、他就Bから1名、エム・ワークスから1名、わかばから1名

3. 退所者 4名

退所先：他就B2名、ひらめの家1名、自宅療養1名

4. 利用者数

月平均利用者数：目標 347 日、実績 344 名 1日平均利用者数(土日祝含む)16名

※参考/23年度：月平均利用者数：目標 261 名、実績 295 名

1日平均利用者数(土日祝含む)：14名

Ⅲ. 活動内容

1. 作業、工賃

1) 作業内容

① 自主製品

弁当作業(製造・販売)

販売先は法人内事業所・東灘区役所・灘校職員室・福祉施設・近隣高齢者・診療所等に加え、玄関先に常設看板を設置したところ魚崎駅利用の方、ご近所の住人の方、地域の高齢給食会などからの新規顧客が増え、リピーターの方も多く前年より毎日平均20食ほど増加し、年間売り上げは635万から884万円に増加し、弁当作業に関わる利用者には精勤手当を支給した。

韃靼そば茶(ティーパック袋詰め、販売)

弁当看板の並びに韃靼そば茶も看板を出すことで、ご近所の方が直接購入してくださる機会が増えたことや、ひらめの家が行う販売会への委託の機会も増えて前年度売上26万円から36万円に増加した。

② 下請け作業

毎日：歯ブラシキャップ付け、検品

週2～3日：そば粉の計量、袋詰め、そばの実の検品、計量、袋詰め

週2日：贈答用菓子箱の検品、仕切り折り

月1出荷：Amazon 出荷前商品の検品

週2日程度：インターネット販売の受付・荷造り・発送

年に1～2回：ホテルのカードキーケース折り

11月から歯ブラシキャップ付けの作業単価が改定されて収入がアップし、7月から新規作業のそば粉計量・そばの実検品作業を開始した。

2) 工賃

最高月額工賃：55,802円

平均工賃月額：20,393円

最高工賃月額とは別に、介当作業に関わる利用者には半年ごとの作業時間に合わせて9月(合計305,460円)と3月(合計336,780円)の精勤手当を別途支給。平均工賃月額は精勤手当分を含めたもの。

2.余暇活動

- 4月：咲くら工房利用者全体会議
- 6月：茶話会(情報との付き合い方、LINEのマナー)
- 8月：茶話会(抹茶プリンお菓子作り、Aさんハーモニカ演奏)
- 11月：須磨シーワールド
- 12月：咲くら工房大掃除・そば提供
忘年会(歳末たすけあい募金にて)

IV. 個別支援状況

1. 就労支援

- ・様々な障害程度や特性に個別に配慮した作業内容や作業工程、環境を工夫しており、弁当・軽作業ともに作業内容の幅を広げてできる事を増やしていった。
- ・就労希望の利用者は一定数いる。希望者はエム・ワークスの社会生活セミナーに参加し、希望者には個別支援計画で利用日数や作業時間増加や作業内容や幅を広げていくステップアップを支援している。
- ・10月と2月に1名、ハローワーク登録や求人相談、合同面接会の見学の同行。3月に1名、「しごとサポート東部」の紹介により超短時間雇用に向けた会社見学をさせていただいた。
- ・一般就労へ結びついた方はいなかった。

2. 生活支援

- ・利用者間での金銭の貸し借りにより精神的に体調を崩し長期欠席となってしまうトラブルがあった。利用契約書内容に基づき、注意の面談・両名の話し合いを行い返済したが、借りていた側の金銭管理状況の問題が大きく、生活保護課と連携して安心サポート利用につないだ。
- ・散財を原因とする窃盗事件を起こした利用者がいた。利用契約書内容に基づき一旦利用停止、計画相談事業所や生活保護課、更生センター、障害者地域相談支援センター等のこれまでの支援機関と今後の支援方針を話し合い、緊急対応の支援として咲くら工房で預り金管理を行っており、計画相談担当者から安心サポートの利用につないでいく。
- ・グループホームと通所日、昼食提供日、体調面等調整連絡を行った。
- ・本人自宅での計画相談、訪問看護、ヘルパー、成年後見人等担当者会議参加。
- ・成年後見人司法書士と本人との定期担当者会議参加。
- ・キーパーソン家族や教育機関、計画相談事業所との生活面の連携。
- ・療育手帳A利用者2名の母親との連絡帳等を利用した個別の生活支援。

V. 地域交流等

5月：木口財団春祭り販売会参加

8月：まんまるけっぺい@東灘区役所参加

11月：赤い羽根共同募金「募金百貨店プロジェクト」参加

3月：県庁 NUKUMORI マルシェ参加

他機関、自立支援協議会しごと部会で区内の就労系事業所と情報の共有や連携、弁当販売を通じての接点、中学校のトライやるウィーク、夏休みの中高生福祉体験学習(ワークキャンプ)受け入れ、専門学校や大学からの看護学生実習受け入れ

VI. 経営状況

2023年度に引き続き、業績は向上している。

VII. おわりに

利用者増加によって稼働率増加に伴う平均工賃月額の低下を懸念していたが、様々な障害特性に応じたきめ細かい配慮や作業内容の工夫、職員間の連携を密に行うことで、利用実績を上げることができた。そして、利用者・職員・作業内容共に全体的に規模が少し大きくなり、弁当作業・軽作業共に収入を上げることができ平均工賃が昨年より 5,000 円アップし、平均工賃月額は年間を通して 20,000 円超えを達成した。

それぞれの障害特性に配慮しながら様々な種類の作業を同時に進めており、職員間の連携や支援力、一緒に作業を進めていく利用者間のお互いの障害理解が運営に直結していることを実感する出来事が多くあった 1年であった。

法人の中でも高工賃を目指せる事業所、それと連動して就職を目指す方のステップアップの場として就職希望者には具体的な個別支援が動き出しているケースもでてきた。タイミングや内容はそれぞれのペースとなるが、事業所としてそれらの個別支援にも応えていけるよう、ジョブラボとの連携や職員の経験や知識も研修・向上していかなければならない。

以上

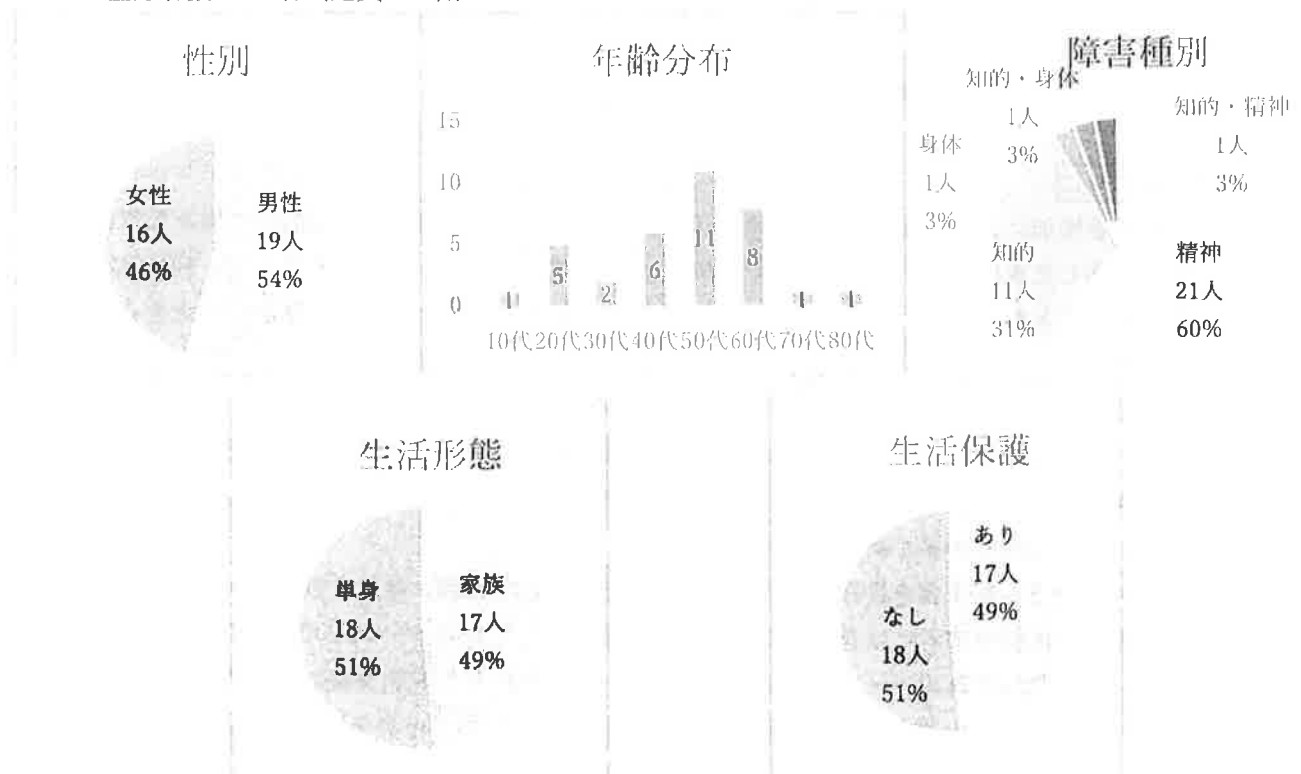
就労継続支援事業B型 「ひらめの家」

I. はじめに

前年度3月から旧六甲倶楽部利用者7名(1名は長期・不定期の在宅利用)、今年度4月に支援学校の卒業生1名を新たに迎えてスタートとなった。利用者の増加にはなかなか至らなかったが、後半になって利用者の休みが減少傾向になった。また2月に2名の新規利用者(元利用者の復帰・咲くら工房からの移籍)が利用開始となり、ようやく実績数の増加に繋がった。下請け作業は順調に受注量を増やし、また新たな作業も開始となり、それぞれの得意な事を活かせる作業の提供ができ、工賃のアップにつなげることが出来た。一方で、昨年始まった傘の縫製作業に関しては、作業可能な利用者が少なく受注数が徐々に減少し、年度末で終了することになった。利用者のやりがいや工賃向上のためにも自主製品の開発、商品化に向けて検討・工夫を重ねていく。

II. 利用者状況 (2025年3月時点)

1. 登録者数 35名 (定員 20名)



利用者の特徴

- (1) 男女比：登録者数での数字は上記の通りで、実際に通ってきている利用者数で見ると女性が増えて、ほとんど変わらなくなってきている。
- (2) 年齢：40代～60代の年配の方が多く、高齢化が進んできている。
- (3) 障害種別：精神障害の方が約60%、知的障害の方31%、身体障害の方は1名。知的と身体知的と精神の重複した障害を持っている方もそれぞれ1名ずつ。精神障害の方の比率が高くなっている。
- (4) 生活形態：単身と同居の比率は若干単身者の方が多く、単身者は50代以上に多い。
- (5) 経済状況：単身者のほとんどが生活保護受給されている。生活保護の受給率は49%と、かなりの高率である。

2. 新規利用者 3名

紹介先：個人見学1名、支援学校卒業生1名。咲くら工房より移籍者1名。

3.退所者 3名

ステップアップされた方や、他のB型に行かれた方がおられた。

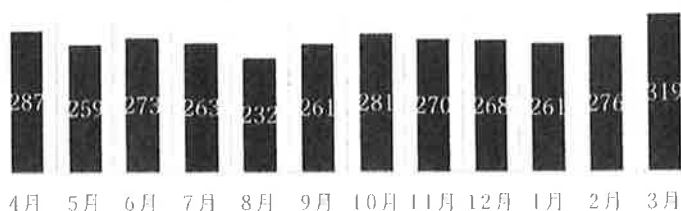
4.利用者数

月平均利用者数：目標 275名 実績 270.6名 1日平均利用者数(土日祝含む)：実績 12.8人

※参考/23年度：月平均利用者数：目標 231名、実績 224.8名

1日平均利用者数(土日祝含む)：11.0名

月毎の利用者数



Ⅲ. 活動内容

1.作業、工賃

① 下請け作業

週に1回納品のある安定した作業

- ・オーナー針(釣り針製作)・コントドフランス(お土産商品製作)・サンワパック(菓子箱検品等)・宮内不動産(ポスティング)

月に1~2回ある安定した作業

- ・大家さんから受託(金魚やメダカの餌やり・植物水やり、シェアハウス清掃)

不定期だが単発的に依頼のある作業

- ・浜福鶴(首掛け折り、紐付け)・倉田紙工(ホテルキーカード製作)・テイアイ商事
- ・エミクル(エコバッグ加工)・創文社(案内状両面テープ貼り)・白鶴美術館(封入)
- ・予防医学協会(封入)・たけのこサイエンス(材料作り)・あらたや(箸入れ)

最高工賃 16,610円 月平均工賃額：10,831円(昨年度 4,360円)

下請け時給 208円

2.余暇活動

王子動物園お花見・世界パラ陸上見学・HUG 展見学・相樂園・新年会・浜福鶴工場見学

Ⅳ. 個別支援状況

- ・就労支援：六甲倶楽部の利用者が増えた事により下請け作業の種類を増やせた。何よりも施設の雰囲気が変わり、元々のひらめ利用者の作業意欲が高まった。過去、作業に全く取り組めなかった方が短時間ではあるが毎日働く事が出来ている。それぞれの得意な事を活かせることが出来るような作業も提供することが出来た。

- ・生活支援：相談支援事業所や訪問看護等、担当者会議以外でも情報の共有を行った。日ごろの

気になる事については職員間でも随時ミーティング等で情報共有を行った。

V. 地域交流、他機関との連携等

地域の認知症カフェのワーキングメンバーとして参加しており、宣伝チラシ配布を担っている。6月より毎月第三土曜日に水道筋商店街のたんぼぼ倶楽部をお借りして販売会を開始した。11月には商店街のイベント「まちなねフェス」に参加した。また、近くの保育園の方に中庭の畑を活用してもらってトマト等を収穫した。

VI. 経営状況

旧六甲メンバーの参加により、利用実績は昨年度の月平均224人から270人へ増加した。何よりも、前述したように六甲メンバーの勤勉さに触発されて施設の雰囲気明るくなった。しかし、元々のひらめ利用者の利用率が下がっており、純増とはなっていない。高齢で単身・生活保護受給者が多く、少し生活等が乱れると長期欠席につながってしまう。彼等への生活支援の継続と共に、新規利用者の獲得を急がなければならない。地道に広報等を繰り返して見学者を増やし、丁寧な接遇で利用に繋げていきたい。

VII. おわりに

様々な下請け作業を中心に働いているが、定期・不定期の下請けだけでは作業量が不足することもある。今後は自主製品の開発(消臭青森ヒバ・廃油石鹸等)やワークショップ実施の検討をし、遣り甲斐を感じて貰い、工賃アップを実現して利用実績者数の拡大を図る。同時に、魅力ある仕事を増やして広報を更新継続し、新規利用者の増加を目指す。

以上

多機能型御影倶楽部・一体型咲くら工房

多機能型	<ul style="list-style-type: none"> ・エムワークスを1月末で閉鎖した。リ切尔カ卒業後の出口や御影倶楽部からの利用者移籍という多機能型として機能が果たされないままでの苦渋の決断だった。 ・リ切尔カプログラムへの御影倶楽部利用者の参加や合同新年会の開催だけではなく、日常的に相互のメンバー同志や職員と一緒に過ごすなど、利用者や職員間の交流はある程度持てた。一方で事業所の枠を超えたメンバー間の距離感(近さ)について、職員間での情報共有や意思疎通が必要とされる状況もあった。
一体型	<ul style="list-style-type: none"> ・作業状況の情報共有を密にして、一体型で15,000円の工賃クリアを目標に、イレギュラーの作業などは特に事業所間で協力して下請け作業を進めることができ、一体型で工賃平均15,842円を達成した。 ・ひらめの家では、水道筋商店街や県庁 NUKUMORI マルシェ等の販売会参加機会を増やし、咲くら工房の韃靼そば茶も売り上げアップにつなげることができた。

地域活動支援センター 「わかば」

I. はじめに

今年度は、「木の芽そらまめフェスティバル」のフラ練習(ステージ)やチーム競技(ボッチャ)を通して、利用者のストレングスを引き出し、事業所としての一体感を得ることができた。

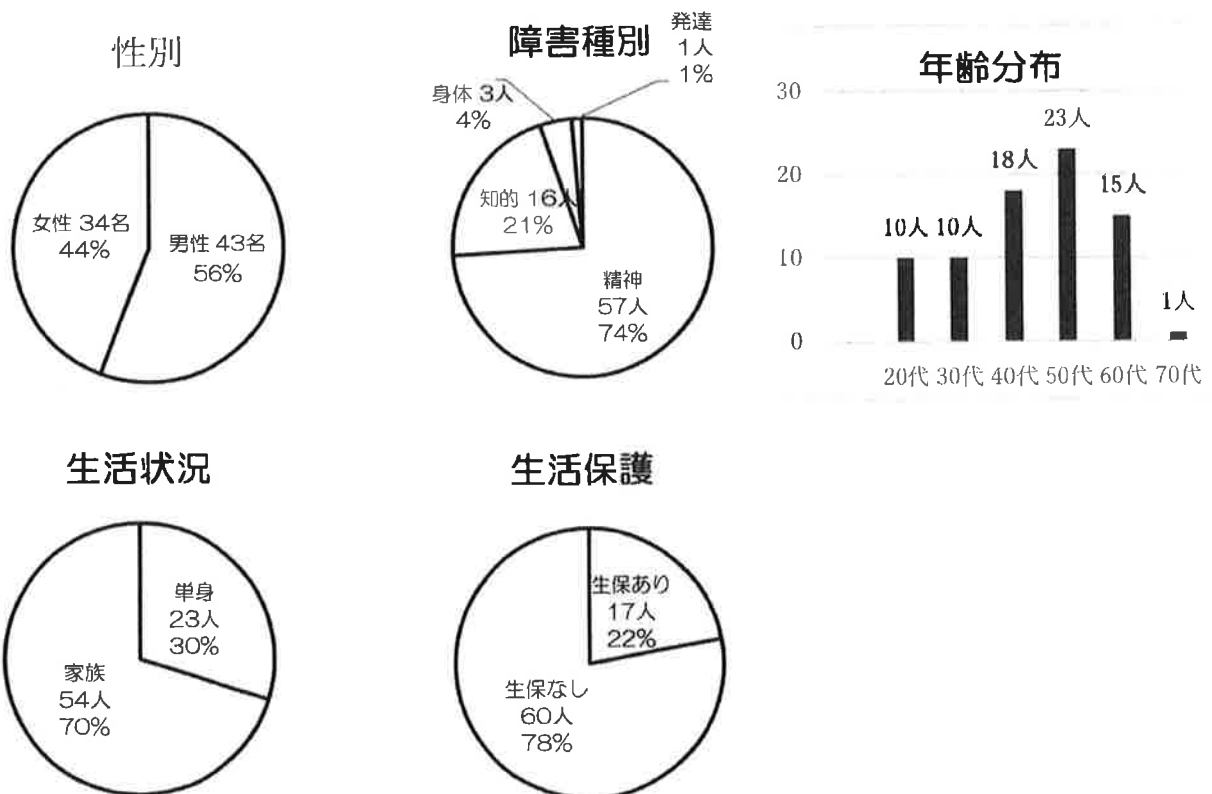
「出張わかば(サテライト=御影クラッセ内)」は、講師を招いたプログラムを取り入れて2年目も安定した来所者数を維持することができ、距離が原因で来所機会が減っている高齢利用者の定期利用にも繋がった。一方で、当初の目的の一つであったサテライトをきっかけとした新規利用者の獲得までには至らなかった。

事業所の傾向として、法人内外の就労支援A型・B型との併用開始、またB型の通所口数を増やす利用者が目立った。就労系事業所だけでなく、わかば以外の趣味を通じた社会資源との繋がりや居場所を得ることになった利用者もいたことで、昨年と比べると登録者数に大きな変化がないものの平均来所者数は減少した。

家族支援では、今年度も御影倶楽部と合同で家族会を実施して、前半は「市民後見人を招いた講座」を行った。学びと交流の両面があって良かったと参加した家族からも好評だった。

II. 利用者状況 (2025年3月時点)

1. 登録者数 77名



男女比：女性の割合が昨年度の43%から今年度は44%と増加。このところ5年連続で女性の割合が上昇している。

年齢：40代50代が多い状況は変わっていないが、60代が昨年から3名増加。高齢化が顕著になっている。

障害種別：発達障害の方を含めても精神障害は全体の75%となり、療育手帳の比率は上昇している。近年は特別支援学校ではなく普通高校等を卒業した後に就職や進学等で「しんどさ」を抱えての精神科受診検査を経て療育手帳取得に至ったケースが多い。※手帳種別だけでなく主治医の意見書にて判断。

生活形態：家族との同居が昨年度の65%から70%に増加している。療育手帳の利用者増加が数字に反映している。家族と同居のケースでも、障害に関わらず年代的に親亡き後の問題を抱えた世帯が多い。※単身者の中にはグループホーム入居者4名も含まれる。

経済状況：生活保護受給者はほぼ単身者。家族と同居している利用者が増えたこと、また単身者でも親からの援助や資産がある方も多く、受給率は昨年度よりも更に下がった。

2.新規登録者

10名（男性3名：女性7名）

紹介先：区役所、相談支援センター、医療機関(主治医、相談員)、計画相談事業所、発達障害者東部相談窓口、自身がインターネットで調査、近隣のグループホーム

3.退所者 2名

近隣のグループホームから退去(1名)、悪性腫瘍にて死去(1名)、他に登録者数には退所の意思を示したわけではないが年度初めの契約更新をしなかった数が反映している。

※就職や転居で契約更新をしない場合もあるが、ミスマッチなどの場合は理由を確認する術がないことも多い。

4.利用者数

昨年度に引き続き日曜日の利用者が多い。県外に転居しても相談場所として利用を継続しているケースもある。普段来所しない利用者への対応が必要となるため、今年度も職員3名体制で対応した。

・月平均利用者数：142.5名

・1日平均利用者数：7.10名

※登録者数は昨年度より3名減、平均値は昨年度より1.5名ほど減少。

Ⅲ. 活動内容

1.プログラム

集団的支援と個別的支援のバランスを考慮しながら、効果とニーズに沿った構成を考えて実施。

- ・生活スキル習得…掃除、お役立ち講座等
- ・学び・知識習得…わかば大人の学び舎、クロスロード等
- ・創作活動…アートプログラム、HUG+展グループ作品制作、書道等
- ・交流・趣味…園芸ボランティア、わかばおやつ、音楽(ギター)等
- ・健康と体力維持…ラジオ体操、ストレッチ、ボッチャ、ヨーガ等

2.相談支援

本人・家族からの相談内容は多岐にわたる。本人が来所できない場合でも家族の相談場所として契約を継続しているケースも数件ある。必要に応じて医療や関係機関との連携を図った。

(内容) 体調・病状、人間関係、福祉サービス、家族関係、将来への不安、日常生活の不安等

1. 面談...登録者：25.8 回/月平均、未登録者：2.2 回/月平均
2. 電話...登録者：110.0 回/月平均、未登録者：13.6 回/月平均
3. 訪問...登録者：8 回(内 4 回は来所できていない利用者宅)

IV. 個別支援状況

地域活動支援センターは個別支援計画を立てていないが、個別の状況に応じて自宅への訪問や他機関との連携、家族との面談などを行った。

V. 地域交流、他機関との連携等

- ・わかばだよりを月 1 回発行、石屋川公園花壇を地域の事業所と分担して管理
- ・ケース担当者会議への参加
- ・区役所、主治医、居宅介護、訪問看護、相談支援専門員、ケアマネジャーとの連携
- ・自立支援協議会(暮らし部会)にて防災の取り組みや大学での障害理解を目的とした授業に利用者と共に参加
- ・市内地域活動支援センター連絡会、発達障害者東部相談窓口とのコンサル事業による会議に参加
- ・近隣大学、専門学校、市民福祉大学(精神保健ボランティア)習生の受け入れ

VI. 経営状況

- ・常勤職員 2 名(内 1 名兼務)・非常勤職員 1 名

VII. おわりに

利用者が法人内外の就労支援 B 型やわかば以外の居場所を得たことは、利用者の自主性やストレスを重視した支援を継続してきた結果であり、わかばだけで抱え込むことなく地域との繋がりを作ることができたこととして評価できる。一方で、しんどさを抱えながらも未だ社会資源に繋がることができている人たちに地域活動支援センターを知ってもらい、利用してもらうことが課題である。

その方法の一つとして、今年度は、発達障害者東部相談窓口と連携して、引きこもりがちな発達障害者に緩やかに繋がってもらう「リモート居場所」の計画を進めたが、先方の職員交代もあって残念ながら実施までには至らなかった。発達障害者への支援は、今年度から神戸市の実施要綱にも追加されているため、来年度は具体的な取り組みを明確にする必要があると考えている。

また、利用者の高齢化が進む中においては、利用者の介護保険利用も視野にいれ、高齢者福祉領域の支援者との連携を強化してスムーズな移行のための準備も進めていきたい。

以上

地域活動支援センター 「あんず」

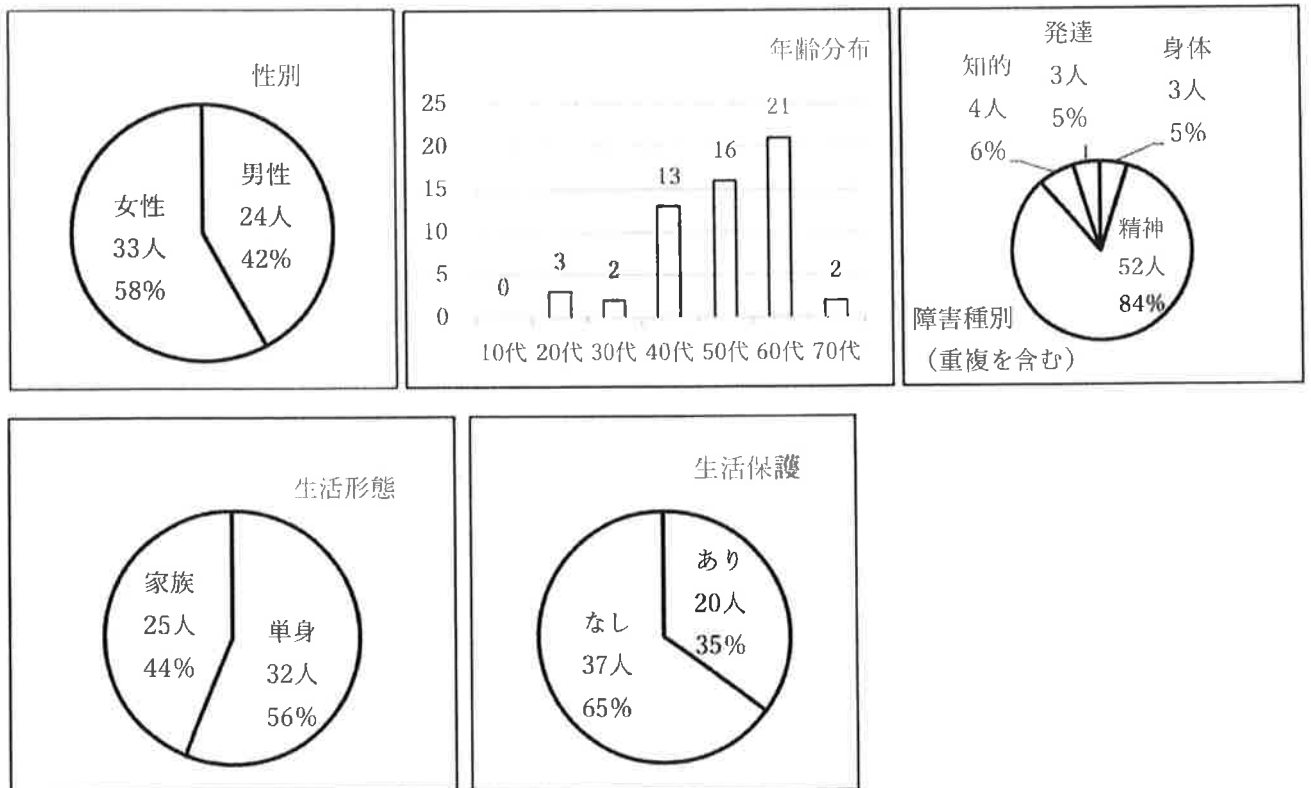
I. はじめに

今年度も、利用者一人ひとりが安心して過ごせる場所としての地活の機能を維持できるよう、職員同士で密にコミュニケーションを取りながら利用者支援を行った。集団支援では、利用者それぞれが主体的に参加できるようなプログラム運営を行い、個別支援では、ライフステージや人間関係の変化により新たな問題を抱える利用者一人一人と丁寧に向き合った。

施設外の活動では、職員それぞれが灘区内の会議や地域の活動に積極的に参加し、支援機関や民生委員・地域住民などへの広報活動を行ってきた結果、少しずつではあるが地域の中で顔の見える関係ができてきたように思う。

II. 利用者状況 (2025年3月時点)

1. 登録者数 57名 (定員 20名)



利用者の特徴

年度初めに10名以上が登録更新をしなかったため、年度末時点での登録者数が前年度に比べ8名減った(理由は後述)。

- (1)男女比：割合は前年度と変わらず、女性が多めの傾向にある。
- (2)年齢：60代が最も多く全体の約3分の1を占め、介護保険の対象となる利用者も増えている。実際の来所数も40代～60代の方が多い。
- (3)障害種別：グラフは重複障害を含む。比率としては精神障害が圧倒的に多い。正式な診断はついていないが発達障害の傾向を指摘されている利用者も多い。

(4)生活形態：単身の方がやや多い。

(5)経済状況：単身者は生活保護を受給している率が高い。

2. 新規利用者 5名

紹介先：自分2名、家族1名、訪問看護1名、再登録1名

3. 退所者 13名

退所先：介護保険サービス2名、就労移行1名、転居2名、復学1名、更新希望なし7名

4. 利用者数(同日に就労系事業所を併用利用した人を除く)

月平均利用者数：149名 (併用を含む場合：167名)

1日平均利用者数：7.5名 (併用を含む場合：約8.4名)

5. 電話、面談、訪問等

電話：81回/月 面談：21/月 訪問・同行：0～1回/月

Ⅲ. 活動内容

1. プログラム

利用者が主体的に参加できるよう、職員やボランティアによるプログラムだけでなく、利用者の特技や好きなことを生かせるようなプログラムや、利用者同士の交流から生まれたプログラムも積極的に実施した。また、利用者のニーズに合わせて参加するプログラムを選べるよう、集団で行うプログラムと個人のペースで取り組むプログラムをバランスよく行うことを心掛けた。

(プログラムの例)

コーラス、外出レク、手芸、卓球、レディースデー、勉強会、語り場、音楽動画鑑賞、お菓子作り、ハンドベル、ぬり絵、ボールペン字、利用者による企画「ウクレレで歌声喫茶」等

2. 居場所

他の利用者との交流を楽しみに来る人や、ぬり絵や読書などをしながら自分の時間を過ごす人など利用目的は様々だが、それぞれの利用者が自分らしく過ごせる居場所として機能していた。前年度からの新規利用者数名が定着し、利用者同士の新たな交流も生まれていた。

以前から女性の来所者の割合が多いため、男性利用者にとっても過ごしやすい雰囲気づくりも今後の課題となる。

3. ボランティアとの交流

紅茶インストラクターや福祉ネイリストなどの新たなボランティアも増え、幅広い内容のプログラムを行うことができた。今後は毎回固定の参加者だけでなく、初めての利用者でも気軽に参加できるような内容を、それぞれのボランティアと相談しながら行っていきたい。

Ⅳ. 個別支援状況

電話、面談、受診・見学同行、生活場面面接(施設での雑談等)など、必要に応じて医療・福祉・行政などの他機関と連携しながら個別の相談支援を継続している。

例)

- ・介護保険の対象年齢の利用者がデイサービスの利用を希望したため、地域のあんしんすこやかセンターに同行。その後、介護保険サービスの利用を開始した。

- ・体調や家庭内の問題を抱える利用者に対して、訪問看護の情報提供を行い、本人の希望に合わせて訪問看護ステーションを紹介した。
- ・精神科病院に入院中の利用者の退院前カンファレンスに出席した。
- ・退院直後の体験利用者がスムーズに繋がれるよう、自宅でのカンファレンスに出席した。

V. 地域交流、他機関との連携等

1. 自立支援協議会への参加

灘区自立支援協議会の災害対策部会の定例会に参加し、障害者にとって災害時に必要な支援について話し合いや情報提供を行った。

2. 発達障害者東部相談窓口との連携

昨年に引き続き、窓口職員と地活職員の連絡会議「e☆DEKOBOKO ラボ」を定期開催した。参加対象者の選定が難しく開催には至らなかったが、オンラインで発達窓口の相談者と地活をつなぐ取り組みの準備を行った。来年度も新たな取り組みに向けて会議を継続する予定。

3. ほっとかへんネット灘、灘区精神障害者支援地域連絡会への参加

ほっとかへんネットでは総会や地域での活動に参加。社協が運営するスペース「みんなのテラス」で行う「ほっとかへんカフェ」に職員として参加し、地域の方との交流や情報提供などを行った。

支援地域連絡会では、2か月に1回の会議に加え、6月に灘区の民生児童委員約200名が参加する研修会に連絡会メンバーとともに出席し、壇上で地活について紹介した。

4. 関係機関との連携

個別支援状況の項目でも述べているように、区役所の障害担当やクリニック・病院のPSW、障害者相談支援センター、しごとサポート、相談支援事業所など、様々な機関と連携してケースの支援を行った。

5. 地域住民との関わり

自治会の総会への出席や、毎月のお便りの配布等を継続している。10月には有志の利用者と一緒に自治会運動会に参加する予定だったが、衆議院選挙のために中止された。

VI. 経営状況

前年度に神戸市の地域活動支援センター(センター型)の公募に応募し認定された。有効期間は2024年4月から2028年3月末までの4年間。

VII おわりに

令和7年度は職員体制の変更もあり、利用者にとっても職員にとっても変化に対応することになるが、これまで職員が入れ替わりながらも維持されて来た、あんずの緩やかで温かい利用者同士の繋がりを今後も守りつつ、職員それぞれが力を発揮してプログラムや相談支援の向上を目指したい。

また職員だけでなく事業所全体としても、他事業所や地域の社会資源、地域住民と繋がれる機会を増やせるよう取り組んでいきたい。

以上

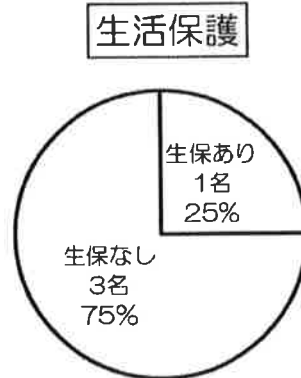
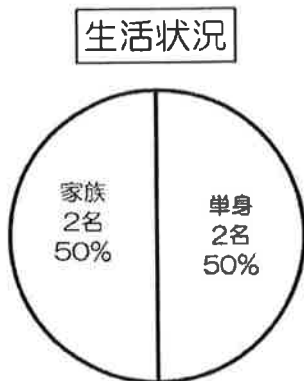
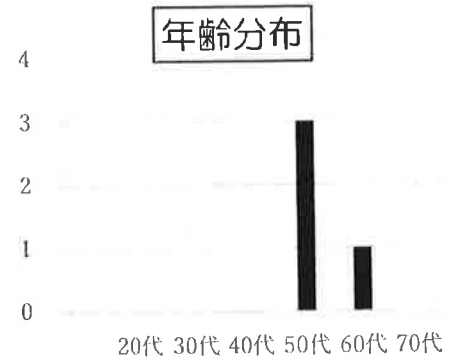
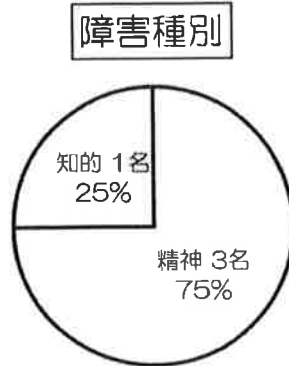
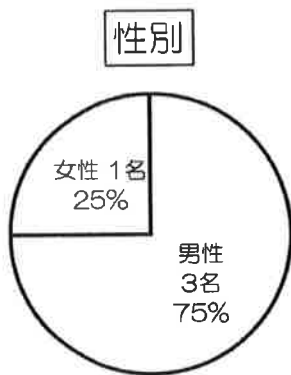
指定特定相談支援事業所 「いろは」

I. はじめに

今年度、兼務する地域活動支援センター業務とのバランスを図りながら、職員それぞれが担当するケースを1名ずつ増やし、全体で4名となった。また、法人業務のクラウド化により、職員二名がお互いに相談・協力しやすい環境が整い業務の効率化を図ることができた。

II. 利用者状況 (2025年3月時点)

1. 登録者数 4名



男女比：男性3名、女性1名

年齢：50代3名、60代1名

(1) 障害種別：精神障害3名と知的障害1名(精神障害手帳も所持)

(2) 生活形態：2名は単身生活(戸建て、集合住宅)

2名は自宅で高齢の母または父と二人暮らし(戸建て、集合住宅)

(3) 経済状況：1名は生活保護受給中

2. 新規登録者

2名(男性1名、女性1名)

3. 退所者 0名

4. 利用者数 4名

Ⅲ. 活動内容

- ・職員が各 2 名を担当。
- ・職員がそれぞれに障害理解や業務に関連する研修を受講。
- ・計画相談に至らない電話相談に対応。
- ・社会資源の情報を法人内で共有。

Ⅳ. 個別支援状況

A 氏(男性)：モニタリング期間 [毎月]

利用中の社会資源：訪問看護、家事援助、移動支援、地域活動支援センター

- ・可能な限りサービス利用中に訪問することを心がけ、サービス担当者と連携を図りながら地域での一人暮らしを支援している。暴飲暴食による体調不良と金銭管理が課題。お金を使い過ぎると受診を後回しにしてしまうため、医療費の仕分けを一緒に行っている。

B 氏(男性)：モニタリング期間 [3 か月]

利用中の社会資源：就労継続支援 B 型、ショートステイ、地域活動支援センター

- ・法人内の就労継続支援 B 型と地域活動支援センターも利用中。母親の高齢化により、親亡き後を見据えて暮らしの場を検討中。昨年度は一緒にグループホームの見学などを行った。今年度は、母親の入院があったため支援者間で連携を強めて見守ったが、結果的には本人のストレングスの発見にも繋がり、将来の住まいについて選択肢が広がった。

C 氏(男性)：モニタリング期間 [6 か月]

利用中の社会資源：身体介護、家事援助、地域活動支援センター

- ・法人内の地域活動支援センターも利用中。障害者相談支援センターよりケースを引き継ぐ形で 2024 年に契約。身体介護は温泉施設での入浴介助。家事援助もゴミ出しから環境整備まで支援中。住環境の改善に向けて、公営住宅の申し込みなどの支援も進めている。数年後の介護保険移行に向けて関係機関と連携を確認しながら支援を行っている。

D 氏(女性)：モニタリング期間 [3 か月]

利用中の社会資源：訪問看護、家事援助、移動支援、就労継続支援 B 型

- ・高齢の両親と公営住宅にて同居していたが、母親が認知症で施設入所したことをきっかけに別居の兄の協力も経て生活をしている。父親との衝突が顕著となったため、世帯分離をして一人暮らしをするための準備を進めた。居住支援事業者との面談や物件の内見、区役所での相談や手続きにも相談員が同行。

Ⅴ. 地域交流、他機関との連携等

- ・本人中心の原則を大切にしながら、関係機関の支援者や家族との連携を重視している。
- ・東灘区の相談支援連絡会、灘区の子育て支援連絡会に参加。

Ⅵ. 経営状況

- ・収入には直接反映されないが、活動を通して得ることができた制度や社会資源の情報を法人内で共有する形での貢献を心掛けた。

Ⅶ. おわりに

担当ケース数は限られるが、本人主体の基本を忘れずに丁寧できめ細やかな支援を心がけた。すべての利用者が複数の福祉サービスを利用中のため、支援者間を繋ぐ役割も意識した。半数は同居家族の高齢化の課題も抱えているため、高齢者福祉支援者との連携にも努めたい。

事業単独での黒字化は簡単ではないが、計画相談には大きな役割が期待されるため、法人として今後の事業の在り方について検討が必要になると思われる。

来年度以降も、できる限り時間を作り、研修を受けるなどして専門知識を向上させていきたい。

以上